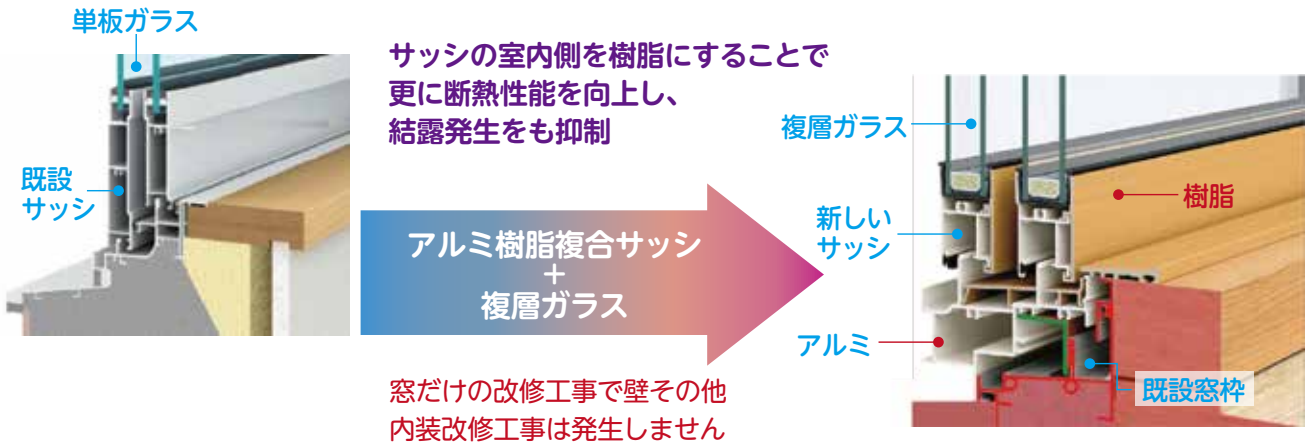


窓の断熱改修工法の分類と特徴

外窓改修 (カバー工法)

既設窓枠を残して
新しい窓を取り付ける工法

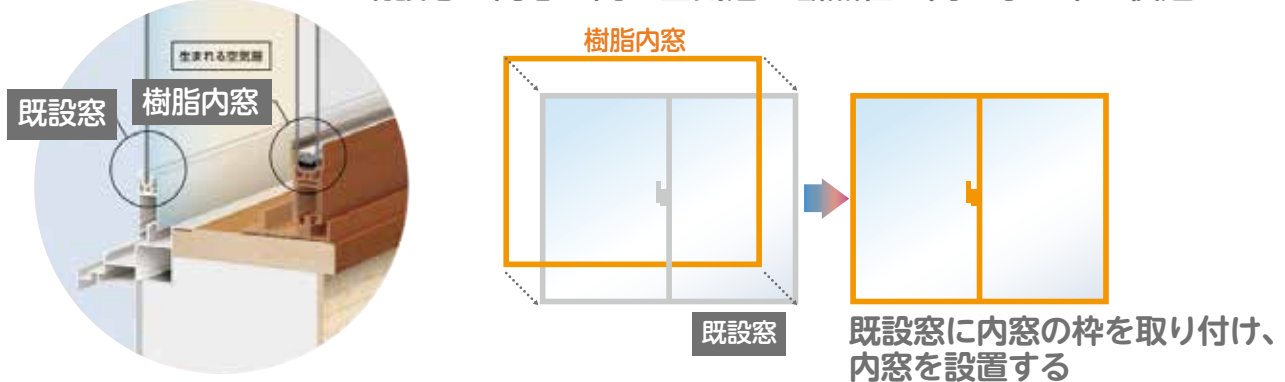
単板ガラスから複層ガラスにすることで断熱性能を高め家の中を快適に



内窓設置

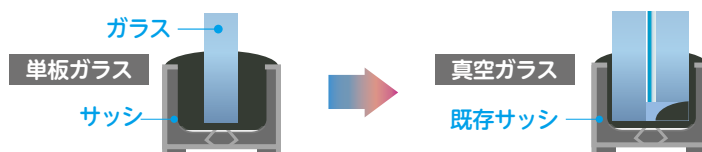
既設窓を残したまま
室内側に内窓を設置する工法

既設窓と内窓の間の空気層が断熱性を高め家の中を快適に



ガラス交換

既設サッシのガラスのみ
高断熱性能の真空ガラスに交換する工法



◆単板ガラス、Low-E 複層ガラス等の比較



画像提供：板硝子協会

注) 文章中の数値は代表値であり性能を保証するものではありません。

窓の断熱改修工法の特徴一覧

		外窓改修 (カバー工法が一般的)	内窓設置	ガラス交換
主な改修効果等の比較	断熱性能向上	○	○	○
	結露の抑制	○	○	△ サッシ部分に結露の可能性あり
	工事期間	△ 約1日/戸	○ 約0.5日/戸	○ 約0.5日/戸
	使い勝手	○	△ 2つの窓の開閉が必要	○
その他の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 断熱性能向上、スムーズな開閉、遮音性向上など、すべての機能性能が向上 改修費用は他工法に比べるとやや高め 	<ul style="list-style-type: none"> 断熱性能に加え、遮音性も向上 改修費用は比較的安価 大開口の窓等、構造上設置できない場合あり 	<ul style="list-style-type: none"> 改修費用は比較的安価 ガラス重量の増加に既存サッシが対応できるかの検討が必要 防火戸(※)には適用不可 <p>※建築基準法で一定の窓に設置が義務付け</p>	
個別改修の場合の留意点	窓は共用部分であるため、管理組合の承認が必要となる。	内窓は専有部分であるが、窓に関する改修になるため、管理組合の承認が必要な場合がある。	窓は共用部分であるため、管理組合の承認が必要となる。	
全戸改修への適合性	断熱性能向上に加え、老朽化したサッシの機能向上が図られるため、長期修繕計画に基づく全戸改修に推奨される。	経年劣化したサッシの機能向上が図られないため、長期修繕計画に基づく全戸改修には向かない。		

※8 ページ版の詳しいリーフレットは協会 HP に公開しています。

